

学びや生き方は自分でデザインする より良い未来をひらく実学教育

千葉商科大学

Chiba University of Commerce

社会で実践的に学ぶ「実学」を重んじ、「社会が必要とする大学」をめざして進化し続ける千葉商科大学。「アクティブ・ラーニング」を通じて地域活性化に挑むあるプロジェクト活動と、2025年4月にはじまる新しい学びを紹介する。

取材・文／草薙敦子

地域を盛り上げたい！ 千葉・山武市での取り組み

「つづく未来に思いをはせる」と大きく描かれたのは、千葉県山武市に広がる水田の一角。豊かに実った稲穂が彩る田んぼアートに、訪れた鑑賞者は自然と笑顔になっていた。

これは千葉県誕生150周年を記念して2023年に行われた田んぼアートで、企画・運営を人間社会学部・勅使河原隆行教授のゼミナールが担った。プロジェクトは同年2月から始まり、地元農家の協力のもと、色の異なる7種類の苗を種から育てた。5月には地元小学生とともに田植えを行い、千葉県知事立会いのもと水田で結婚式も開催。7月には見頃を迎えたアートを披露する鑑賞祭を行い、9月の稲刈りには学

生や地域住民のみならず、外国人なども参加し、多様性や地域共生社会を体現した収穫祭となった。

地域で学び、身につけた力を 地域の課題解決に活かす

このプロジェクトは勅使河原ゼミを中心に、人間社会学部の学生が主体となって進められた。ゼミでは2014年から山武地域の活性化プロジェクトを継続している。メンバーの一人である小川真優さんは、山武市出身の4年生だ。

「小学生の頃から学生による地域活性化プロジェクトは知っていました。自分も参加して地元貢献したいと思うようになり、千葉商科大学への進学を決めました」
入学後すぐに、念願だった「さん

む地域活性化プロジェクト」に参加。

山武市産のねぎなどの特産品を使い、学生が企画開発した商品を、各地のマルシェなどで出店・販売した。「お客様に商品を通して地元である山武市の魅力を伝えることで、地域への愛着と関心がより高まりました」と振り返る。多数のプロジェクト

に参加して地域と向き合い、経験を重ねた小川さんは、山武市役所に内定（2025年2月時点）。4月から市職員として地域を盛り上げたいと語る。

社会福祉学を専門とする勅使河原教授は、商品開発やイベントを通じて、学生とともに地域活性化や復興支援に取り組んできた。

「ひとつの取り組みが形になると、学生も地域の人々も喜ぶ。そこから新たな人のつながりが生まれ、次の

プロジェクトにつながっていく。地域で活動した学生は確実に成長し、社会課題を見つけて解決する能力を身につけ、卒業後も地域に貢献する道を歩んでいく。そんな好循環が生まれてきました」と勅使河原教授は語る。

自分で選ぶ、だから成長する 主体性を育む新カリキュラム

建学以来、「実学教育」を根幹に据えた千葉商科大学は、実学を通じてより良い未来を創造し続けてきた。前述の人間社会学部や各学部のプロジェクトのほか、「CUC全学共通プログラム」など、実践から社会課題に挑む「アクティブ・ラーニング」に多くの学生が取り組んでいる。

予測困難な時代を生き抜く人材



(右) 世代や地域、国籍の垣根を越えた多くの人々がともに農を体験し、食やアートを通じて交流することで、多様性の理解や地域共生社会の実現をめざし、田んぼアートが描かれた。(左) 収穫されたお米は、小学生との蒸しパン作りなどに使われたり、社会福祉法人に寄贈されたりした。

大学で学び、現場で実践する
地域とともに成長する4年間



人間社会学部
人間社会学科 4年
千葉県立
四街道高等学校 出身
小川 真優 さん

「高校生までは積極的に行動する生徒ではなかった」と語る小川さん。大学では、商品開発や長期的な田んぼアートプロジェクトに携わり、住民や生産者、企業、自治体など、多様な人と関わりながら、地域の課題と向き合うように。また、山武市役所でのインターンシップに参加したことで、地元で働くことへの想いを強めていった。

地域の課題に取り組むコミュニティ・ベースド・ラーニング

学生開発商品を
マルシェで対面販売



学生が考案し、生産者や企業とともに開発したドレッシングやコーヒーなどを各地で出店し販売している。「プロジェクトに参加し、マルシェなどでレシピの配布や試食を実施しながら商品を販売しました。多くのお客様に山武市の魅力や学生の取り組みをアピールすることで、プレゼンテーション能力が鍛えられました」

千葉県誕生150周年記念
田んぼアート in 山武市



3年生になり、勅使河原ゼミのメンバーとして企画・運営を担った田んぼアートは、千葉県主催の一大イベントに。「種まきから稲刈りまで何度も山武に通い、その都度出てくる課題の解決をしていく中で、自分たちで考える力も身についたと感じています。イベントではたくさんの方の参加者や地域の方とのコミュニケーションの機会に恵まれました」

「道の駅いちかわ」に
常設ブースを設置



学生が開発した商品は、大学からほど近い「道の駅いちかわ」で常設販売がはじまり、注目を集めている。「売れ行きなどを見ながら、陳列方法やポップのデザインなどを試行錯誤し、常に売り場をアップデートさせています」。商品にまつわる「ストーリー」から社会課題を広く知ってもらい、解決につなげることを、売り場作りでも強く意識している。

を育成するために、2025年4月からは学びの体制を4学部6学科に改組し、実学教育をさらに未来志向の学びへ強化する。大学本部長・入学センター長の出水 淳氏に改革のポイントとその狙いを聞いた。

「自分で学びをデザインできる、そんな仕組みづくりを進めています。所属する学部・学科の領域を越えた自由な学び方が可能になり、興味関心に合わせて主体的に選べるカリキュラムが始まります。学科の学びに集中して専門性を高めることも、複数の領域の学びを組み合わせて自分らしい未来をひらくことも、学生自身で選ぶことができるのです」

しかし、学生には自分の学びたいことや将来のビジョンを模索する機会や時間も必要である。そこで新設されるのが「自分未来ゼミ」だ。

「1年次の必修科目として、大学4年間の姿とその先の未来を考える授業を、全学部混成のクラスで行います。ディスカッションを交え、自身や他者を深く理解しながら、学びたいことを探していきます。大学が提供するカリキュラムをただこなすだけでなく、学生が主体的に選び、学んだことの方がより成長につながるはずです。学びや未来を自分で選ぶための土台を、自分未来ゼミで固めてほしいと考えています」

Information

千葉商科大学



1928年設立の巣鴨高等商業学校を前身とし、1950年に千葉商科大学として、商学部商学科を開設。2025年4月からは商経学部、総合政策学部、サービス創造学部、人間社会学部の4学部6学科体制へ。独自の実学教育は内外から高い評価を受けている。同大学の学生を積極的に採用する「CUCアライアンス企業」約1060社（2024年11月現在）との提携や資格取得サポート等、キャリアサポートにおいても高い実績を誇る。

● DATA

千葉県市川市国府台1-3-1
TEL 047-373-9701（入学センター）
URL <https://www.cuc.ac.jp>

先進的な分野の学びで
未来を生き抜く力を育む

これからの時代に重要な「I・S・T G+（インフォメーション・サステナビリティ・イノベーション・グローバル）」の4つの軸に基づいた、全学共通カリキュラムを充実させたことも改革の大きな特長だ。

「このカリキュラムは学生がそれぞれこの学部で身につける専門性に加えて、これからの時代が必要とされる知識・スキルを、必要に応じて選択することができるアドバンスト科目群となつていきます。①グローバルなものの見方や知識を身につけて留学をめざす『グローバル分野』、②プログラ

ミングやシステム開発を学び、情報社会で活躍できる人をめざす『情報データサイエンス分野』、③より良い人生を送るために、自分の価値観に沿って強みを活かせる働き方を見つける『キャリア分野』、④総合的な教養を身につけることで公務員試験の出題範囲を学ぶ『総合教養分野』の4つがあります」と、出水氏。

自らの興味関心に応じて自由に学びを選び、取り組むことで、自分らしい未来をひらくことが狙いだ。

自分で生き方をデザインし、主体的に行動する人材、そして社会課題を解決に導く人材を育てながら、千葉商科大学は「社会が必要とする大学」へと進化し続ける。